

下妻の梨を支える若いチカラ

下妻の梨の応援団「下妻の梨PRサポート」の活躍と期待

下妻市は、県内有数の梨の产地。近年、市内の若手梨生産者で組織する「下妻の梨PRプロジェクトチーム」が、ブランド梨「下妻甘熟梨」の開発や海外へ販売輸出をするなど躍進する中で、5年前の県内大學生や下妻市民からなる下妻の梨の応援団「下妻の梨PRサポート」

の活動をきっかけに、筑波大学公認農業サークル「のうりんむら」の活動をきっかけに、筑波大学公認農業サークル「のうりんむら」との連携を続けています。収穫や選果などの農作業をはじめ、PRイベントなどと一体となって産地振興とPRに努めています。

筑波大学公認農業サークル「のうりんむら」は、「学校では教えてくれない農業」を学ぼう」と、農業に関する知識を設け、学習しています。実体験を重視して活動する同サークルの学生は約80人。地元農家から借りた畠で野菜作りを中心に、有機栽培農家や畜産農家の作業にも参加しています。5年前から「下妻の梨PRサポート」をして下妻の梨PRプロジェクトのさまざまな活動をサポートしています。

学生と連携して産地振興とPRを強化

筑波大学公認農業サークル「のうりんむら」は、「学校では教えてくれない農業」を学ぼう」と、農業に関する知識を設け、学習しています。実体験を重視して活動する同サークルの学生は約80人。地元農家から借りた畠で野菜作りを中心に、有機栽培農家や畜産農家の作業にも参加しています。5年前から「下妻の梨PRサポート」をして下妻の梨PRプロジェクトのさまざまな活動をサポートしています。

受け入れをサポート

市内大木の下妻第一梨選果場に隣接する梨農園に8月22日、民間の観光バスツアーで県内外から19人が訪れ、収穫を体験しました。梨生産者のほか、「のうりんむら」からは学生4人が参加。観光客に食べごろになつた梨の見分け方や収穫の仕方などを伝えました。収穫した梨は食べ放題のため、よく準備し、切り分けた梨を提供する姿も見られました。

同日、日本貿易振興機構(ジェトロ)が主催する現地視察でアメリカとブランドの食品バイヤーなど関係者5名が同梨農園を訪れました。稻葉市長がトップセールスする中で、学生たちも農

日の両日、市内堀籠のイオシ下妻店で、「下妻甘熟梨」のPRイベントを行いました。「下妻甘熟梨」はマレーシアに今まで、初輸出されるなど、国外や県外での知名度、評判は高まりを見せていました。地元の人にもプレミアムな梨を知つてもらおうと、「のうりんむら」の学生は試食を提供したり、PRグッズの子供向けシールを配つたりして、イベントを盛り上げました。

ショッピングセンターでのPRイベントをサポート

同プロジェクトチームは8月22日、23

日に、JA常緑ひかり下妻市果樹組合で「下妻の梨」のPRイベントを行いました。「下妻甘熟梨」はマレーシアに今まで、初輸出されるなど、国外や県外での知名度、評判は高まりを見せていました。地元の人にもプレミアムな梨を知つてもらおうと、「のうりんむら」の学生は試食を提供したり、PRグッズの子供向けシールを配つたりして、イベントを盛り上げました。



下妻第一梨選果場での出荷作業をサポート。トラックからの荷下ろしや梨の箱詰め、規格外の梨の袋詰めなどを行います

若いチカラの共同で新たな商品開発の可能性も

「のうりんむら」は今、お茶の水女子大学公認サークル「ochas(オチャス)」と商品開発をする「ONEプロジェクト」と題した企画を進めています。

「ochas」は、同大学生活科学部食物栄養学科の学生を中心とする約120人が所属するサークル。「食」「栄養」「おいしさ」といった授業で学習したことの実践に移す場を求めて「『食べ幸せ』を届ける」をテーマに、複数のチームに分かれて学内外で商品開発やイベントを行っています。

企画内容は、「のうりんむら」が作った作物を使い、「ochas」の商品開発の経

験を生かしながら、商品開発しようというものです。9月にはつくばに「ochas」の皆さんを迎えて、商品開発を使うメニューの材料の決定する予定ですが、その候補の一つとして「下妻の梨」があがっています。



地元ショッピングセンターで行われたPRイベントでレイアウトされる下妻甘熟梨

両大学サークルのメンバーによる梨農園の視察を受け入れた、同プロジェクトチームの栗野寿広リーダーは「若い感覚、発想力で、梨を使った新しい商品が生まれたらおもしろい。ぜひ、さまざまな意見を聞いてみたい。若いチカラが新たな下妻の梨の可能性を秘めている」と期待を寄せていました。



収穫作業で梨の色味を確認しあう栗野リーダーと学生たち
品質の統一化を図るため、その眼差しは真剣です



「下妻甘熟梨」のマレーシア初輸出の日に、下妻第二梨選果場で出荷をサポートした学生たち(8月17日)



ショッピングセンターでのPRイベント。試食をすすめながら、下妻の梨の魅力をアピールします。やさしく声をかける学生は、子どもたちにも人気があります



応援団「下妻の梨PRサポート」の活動をきっかけに、筑波大学公認農業サークル「のうりんむら」の活動をきっかけに、筑波大学公認農業サークル「のうりんむら」との連携を続けています。収穫や選果などの農作業をはじめ、PRイベントなどと一体となって産地振興とPRに努めています。

摘果、収穫作業を体験

選果場では出荷をサポート 「のうりんむら」の学生たちは、5月によい果実を得るために、余分な果実をつみ取る摘果作業にはじまり、出荷の最盛期を迎える8月には収穫作業を体験。選果場でも荷運びや箱詰めなどを担当し、出荷をサポートしています。「のうりんむら」代表の岩井一馬さんは「自分たちで育てたものを、おいしく

食べるという活動の中で、作物の成長過程を見れることが勉強になる」と話していました。

園内で試食の準備などを行いました。広報しもつま 2015.9 | 2